宮崎県社会教育委員連絡協議会　会報［第４号］

平成２０年１２月発行

社会教育委員の皆様へ

宮崎県社会教育委員連絡協議会副会長　川島　博章

平成２０年が間もなく暮れようとしておりますが、県下の社会教育委員の皆様におかれましては、どんな年であったでしょうか。

私自身、本年度から都城市の社会教育委員を委嘱され、同時に本協議会の副会長就任の要請を受け、お引き受けをしたところでございますが、本当にあっという間に月日が流れたように思います。

ところで、当地区におきまして社会教育に関する最近の環境変化と言えば、法律の改正にとどまりません。現在、１市４町の合併から３年を経過しようとしていますが、この間、それぞれの社会教育関係団体の再編や補助金の調整、さらには自治公民館の担当部局が教育委員会から首長部局へ移管されるなど、実に様々な環境変化が起こりました。たとえ環境が変わり、人が交替したとしても、私ども社会教育委員は、住民の生活や学習に関する意識や行動、そして地域実態の的確な把握のため、所属する団体や地域社会において、日頃の実践活動こそ重要であると改めて思う昨今でございます。

最後になりますが、委員各位をはじめ関係者の皆様にとって、来年もよき年でありますよう祈念申し上げ、ごあいさつとさせていただきます。

平成２０年度宮崎県社会教育委員研究大会・宮崎県公民館経営セミナーの報告（事務局）

平成２０年１０月１５日（水）、秋晴れの下、綾町公民館文化ホールにおいて、県下の社会教育委員、公民館関係者約３５０名が集い、平成２０年度宮崎県社会教育委員研究大会・宮崎県公民館経営セミナーが実施されました。

○「表彰・紹介」

今回、社会教育関係で永年、活躍されている方や団体に対しまして、表彰が行われました。

県社会教育功労者５名、県社会教育優良団体５団体、県地域文化功労者教育長表彰３名・１団体、県公民館連合会功労者表彰８名、県公民館連合会優良自治公民館報表彰２０館が表彰され、全国社会教育委員連合表彰１名が紹介されました。表彰を受けられました関係者の皆様、本当におめでとうございます。

表彰の様子

堀之内逸郎氏の発表

柘植　健氏の発表

○「発表」

公民館代表として、都城市志和池地区上水流東自治公民館館長の堀之内逸郎氏に、「ふれあいの地域づくりをめざす自治公民館活動」と題して、また、社会教育委員代表として、延岡市社会教育委員会議副議長の柘植健氏に、「社会教育委員１０年生としての活動」と題する発表をしていただきました。

両氏ともに日々の実践に裏打ちされた発表であり、これからの活動への示唆を与える発表をしていただきました。また、相互の情報交換ともなり、意義ある発表であったと思います。

○「講話」

今回、講師として、ふるさと再生塾塾長（前札幌国際大学学長）小山忠弘氏に「ふるさと再生と社会教育の新たな視座」と題して講話をしていただきました。

豊富な行政経験と実践家としての講話は大変興味深く、これからの活動のあるべき姿について示唆に富んだお話でした。

《要旨》

- 教育基本法改正に伴う教育関係法律の改正により、社会教育委員・公民館関係者の使命が、これまでとは比較にならないほど重くなった。
- 今、まさに大人が、子どもの道徳をわきまえたモデルとならなければならない時代である。つまり人間育成の社会教育が必要な時代である。
- 県、市、町、村、それぞれの社会教育の在り方は違う。それぞれの地域課題や生活課題に沿った形で進められなければならない。そのためにも社会教育委員と公民館関係者の緊密な連携が必要である。
- 社会教育委員、公民館関係者は社会教育主事や司書・学芸員等の社会教育関係専門職員との協働が必要である。協働するためには次の４つが必要である。①双方対等の立場②情報の共有③知恵、技術、資金の供出④責任の共有
- これからは、自分が生まれ育ったふるさとの自然・歴史・文化等のすばらしさを、自然体験、社会体験、生産体験、職場体験等を通して、子どもから高齢者まで一体となった学習が必要である。

今回初めて社会教育委員と公民館関係者が一堂に会した大会でした。小山氏の講話の中でも、相互の緊密な情報交換が必要と強調されましたが、大変意義ある大会になったと考えております。

また、県社会教育委員連絡協議会の各地区理事の皆様方は、早朝より受付や準備、片付けまで担当していただき、ありがとうございました。

平成２０年度第５０回全国社会教育研究大会長野大会の報告（事務局）

１　大会名　　平成２０年度第５０回全国社会教育研究大会長野大会
２　場　所　　長野県県民文化会館
３　日　時　　平成２０年１０月２９日（水）～３１日（金）
４　内　容
　(1)　開会行事
　(2)　基調報告（全国社会教育委員連合会長　大橋謙策）
　(3)　記念講演（演題「オーロラに魅せられて」講師　地球物理学者　赤祖父俊一氏）
　(4)　分科会
　(5)　シンポジウム（テーマ「住民の社会貢献活動及び地域再生と社会教育の役割」）
　　コーディネーター　宮崎県社会教育委員連絡協議会会長　上條秀元
　　シンポジスト　　兵庫県社会教育委員協議会　元会長　上杉孝實
　　三重県公民館連絡協議会　会長　　水谷　正
　　つれづれ遊学舎　主宰　　武田　徹
　(6)　大会宣言文決議
　(7)　閉会行事

【基調報告】
○　私たち社会教育委員は、社会貢献、社会再生のために何ができるのか。これからの社会においては、縦社会の上意下達型ではなく、横のネットワークシステムづくりが重要になってくる。
○　社会教育委員は、自分たちの地域をどんな地域にするのか、したいのかということを明確に持たないといけない。
○　長野県茅野市ではゴミの分別を１６種類行っている。これは一朝一夕にはできない。住民にも様々な方がいるが、住民と行政が協同して取り組んできた成果である。
○　社会教育法第３条の持つ意味を考えないといけない。社会教育委員の役割はそこにあり、文化的教養を高め得るような環境を醸成するきっかけをつくることにある。自然の状態では何も変わらない。どろくさく取り組むことであり、社会教育委員が動き、社会教育委員が手を引っ張っていかないといけない。教育は百年の計であり、社会教育委員に与えられた責任は大きい。
○　戦後、我が国の教育において「自由」と「平等」は教えてきたが、「博愛」を教えなかった。「博愛」は道徳を超えたものであり、「博愛」の精神がないために、自分勝手な「自由」と「平等」になってきているのではないか。
○　私たちは、これから学校教育行政、社会教育行政の縦割りの意識ではなく、地域教育行政の意識で取り組まないといけない。

【記念講演】

○　最近、地球温暖化の原因は、マスコミ等で二酸化炭素が原因だと叫ばれているが、本当にそうであろうか。
　氷河が崩れ落ちている映像も度々見るが、氷河は川であり、もともとその先端が崩れ落ちるのは自然現象なのである。また、北極での研究を通し言えることは、産業革命の時代から温暖化にならなければならないのに、データ的にはそうではなかった。
　つまり、温暖化は一つの小氷河期のサイクルの中での一つの現

象としてとらえることができるのである。

今、科学の視点からは、二酸化炭素が原因といった状況はおかしいと言わざるを得ない。しかし、この見方、考え方も新たな人物によって覆されるかもしれないのも科学的にみれば事実である。

○　長い物理学研究の中で言えることは、ものには様々な見え方があり、それを総合的に見ていかなくてはならないということである。鉛筆でも見る方向によって様々な形に見える。一つの見方にだけとらわれていたのでは全体が見えたとは言えない。一つの原理を発見する過程においても様々な議論討論をしてきた。その積み上げこそが大切なのである。また、常識だと思っていたことが、結果的に全く違うこともある。常識と思っていたことから、ほんの小さな点でも疑問が生じれば、その疑問を発展させていくことこそが大切であると思う。そこに科学の発展がある。疑問を追求していくことで、新たな発見が見つかるのである。

【シンポジウム】

コーディネーターとして、本県社会教育委員連絡協議会の上條秀元会長が、「住民の社会貢献活動及び地域再生と社会教育の役割」について３名のシンポジストから以下の意見を引き出されました。

○　兵庫県の社会教育委員の会議は知事部局からも参加している。今、社会教育は、社会教育のみに関わらず、社会事業との関わりが出てきている。要するにネットワークが大切だと考えている。

○　社会教育委員は、積極的に市民に関わることが大切だと思う。公民館は学習だけではなく、それ以外の運動に関わる必要があると思う。例えば、以前は、生活改善運動に熱心に取り組んだ。

○　今、家庭の危機だと強く感じている。その原因は、文明の利器であるテレビやテレビゲーム、携帯電話である。現象としては、キレる子どもが増え、秋葉原のような事件もあったりする。しかし、それは特別な人間だけではなく、多くの子どもたちが抱えている問題だと思う。結局その子どもたちは幼い頃より愛情をもらっていないのである。大学を出ても自分探しがしたいと言っているが、その年齢では、自分づくりをしなくてはいけない。

○　これからは子どもたちに五感を使った体験をさせないといけない。そこから思いやりとかの第六感と言われる感覚が育つのではないか。その数値化できない感覚が大切なのである。そこで、家庭環境、生活改善に取り組まないといけない。文明の利器と距離の取り方を考えないといけない。子どもが大人になってから携帯電話は与えればよいのではないか。

○　限界集落ではなく、限界家庭が出てきている現状の中で、NPO、ボランティア団体企業との連携など横の連携が必要である。そのような方々の力を引き出し、連携させることを社会教育委員に期待したい。そのことが子どもたちと大人を交わらせ、子どもたちの五感を発達させることにつながると考える。

○　これからは生活に密着した取組が重要である。学びと実践をつなぐ役割が社会教育委員であり、社会教育行政だけでなく、他の行政部局とも交えて取り組んでいくことが必要だと思う。

平成２０年度第３８回九州ブロック社会教育研究大会福岡大会の報告（事務局）

１　大会名　　平成２０年度第３８回九州ブロック社会教育研究大会福岡大会
２　会　場　　福岡県　アクロス福岡
３　日　時　　平成２０年１１月１３日（木）～１４日（金）
４　内　容

(1)　分科会
(2)　開会行事
(3)　記念対談（登壇者　青山学院大学教授　鈴木眞理氏
　　国立青少年教育振興機構理事　菊川律子氏）
(4)　閉会行事

【分科会報告】

本県、社会教育委員を代表して、清武町社会教育委員長の田村良弘氏が第２分科会で「地域における世代間交流について」と題して事例発表をされました。

《田村氏の発表要旨》

○　「息軒塾正手語ろう会、やってみろ会」は、現在役員数１５名、正手地区自治公民館を拠点とし、地元農家の好意によりお借りした約２５０平方メートルの畑と、公民館近くの河川敷グラウンドを活動の場としている。

○　年間を通じて活動している。
　例えば、４月は、役員会で年間活動について話し合い。
　５月中旬、ホタルの里づくり、ホタル見学会、７月下旬、いも畑草取りとすいか割り大会、８月中旬、夏休み工作教室、ソーメン流し、キャンプファイヤー、３月下旬、さくらの花見会

○　活動の評価として、自治公民館長をはじめ、地域の老人会、婦人会、ＰＴＡ、民生委員、小・中学校の先生方、その他多くの方々のご理解、お力添えがあり、地域の活性化に役立っていると考える。やれることはささやかなものであるが、この会は、青少年の健全育成と、地域の人々のふれあい、学びあいの場として地域に根付いてきており、今後とも細く永く続けていきたい。

○　今後の課題としては、広く地域住民にこの活動について知ってもらうこと、また児童自身が考え、創造し、充実感を得られるような工夫も必要と考えている。

○　最後に、地域住民、家庭と連携しながら、この活動をさらに活発にしていきたい。そして、これからはこれらの活動とともに、「あいさつ運動」を基本に正手地区の活性化を図っていくことが大事であると考えている。

【記念対談】

「新しい時代を創造する社会教育の役割～未来を拓く次世代育成戦略～」をテーマに、鈴木氏と菊川氏、及び参加者の間で活発な議論が展開されました。特に、社会教育委員や行政関係者自身の行動力や現代社会への認識力の重要性が力説され、身の引き締まる思いをするとともに、明日からの活動への熱いエールをいただきました。

今回、本大会には、本県からは３３名が参加しました。この成果を今後の活動に繋げていきたいものです。来年度は平成２１年１０月２８日～３０日に熊本県熊本市において、全国大会と九州ブロック大会が同時開催されます。是非、多数の参加をお願いいたします。

社会教育委員としての取組

（各地区代表より）

【宮崎地区】　　宮崎市社会教育委員　池田　昭

《社会教育委員としての取組～宮崎市の考え方》

１　宮崎市の社会教育委員の構成･･･１９名で構成。

２　役割･･･それぞれがどんな役割をするのかが曖昧であるので、はじめに委員の研修をして共通理解を図っている。

３　委員の力量（はたらき）･･･お互いに助け合いながら活動していくことをねらっている。

- 学校教育関係者には、連携と融合を主に、社会教育の発想をどのように取り入れていくか考えていただく。
- 社会教育関係者には、得意なものを会議や研究会の中で生かしていただく。
- 学識経験者には、全体の流れの中で、考え方などを生かしていただく。

４　社会教育委員としての取組

社会教育法（第１７条）の実践を、お互いに理解するとともに、社会教育委員制度の趣旨を生かす。

①　住民のニーズを行政等に反映させる。

②　社会教育は、広いアンテナ（視野）をもって、すべての活動において、交流にあたり、信頼関係を構築していく。

③　社会教育委員の研修の機会、さらに社会教育委員連絡協議会の活動は、今後期待される。

※　われわれ社会教育委員は、「**学び続ける**社会教育委員」「**地域のビジョンを描く**社会教育委員」「**コーディネートする**社会教育委員」でありたい。

【南那珂地区】　　日南市社会教育委員　後藤　和久

例年実施している研修会を、今年は年明け早々、お屠蘇も抜け切らぬ正月１６日～１７日に、熊本県植木町で、久しぶりに一泊二日で行った。串間、南郷、日南、北郷を経由して、日南市のわかすぎ号で田野ＩＣから宮崎高速道・えびのＪＣＴを経て、九州自動車道で植木ＩＣまで１８７ｋｍ。国道や地方道を利用して昼食を済ませて、菱形小学校に向かった。

視聴覚室で、町の担当者から学校についての説明があり、校長先生の紹介があった。次に校長先生の講話を受けた。この校長先生は熊本県教委で社会教育の経験があり、講話後も質問を受けていただいて時間が早く進んだ。「地区公民館との連絡・ＰＴＡの参観日の工夫」など、視覚を利用しての指導を受けた。以前にも、生涯学習講座の実施について、合志町、西合志町に研修視察にお邪魔したことがある。

親切に実態を話してもらうと、自分の町の良い点、欠点が分かって、市民中心の講座が設定できて、２年目からは、受講生が自分たちで講師の先生をお願いし、場所も設営して講座が計画実施できる。

植木温泉に泊まり、久しぶりに遅くまで口角泡を飛ばし、お互いの町について、遠慮のない意見を交換した。翌日は、植木町教育委員会で教育長の話を聞き、お礼を申しあげた。

西南の役の田原坂の記念館や記念碑を観て、冬の西瓜をお土産に高速道を帰った。

【都城北諸地区】　　都城市社会教育委員　朝倉　脩二

《社会教育委員として九州大会に参加して》

第３８回九州ブロック社会教育研究大会福岡大会に参加したので、第４分科会での感想を述べて活動報告に代えたいと思います。

まず、大分県国東市の社会教育委員の富永氏（写真左）については、大分県内の各地区で開かれているデザイン会議についての発表でしたが、毎年多くの事例を報告しあうことで、参加者はもちろん、発表者自身も自分たちの活動を振り返り、客観的に考え直す良い機会となっているようであり、さらには、大学や県とも連携し、情報の共有や連帯意識が醸成され、社会教育委員もフットワーク良く積極的な活動をされていることに感銘した次第です。

二人目は「食育をとおして家庭教育力の向上をはかる」と題する福岡県筑前町の松尾氏（写真右）の発表でした。社会教育委員として現場に飛び込んで活動をされており、試行錯誤しながらも問題解決の手法を確立されつつあると思いました。

中でも、活動を通して社会教育委員の役割を認識され、自分たちが変わることではじめて他人を変えられるという意識改革をされたことは素晴らしいと感じたところでした。

【小林地区】　　小林市社会教育委員　西　　誠

小林市社会教育委員会議は、平成１９年５月に教育委員会から「地域の教育力向上のための高齢者の役割と子どもとの異世代間交流活動の推進」についての諮問を受けました。平成１９年５月１６日の第１回会議以来、子ども会育成協議会、高齢者学級、ＰＴＡ団体等の役員との意見交換会、日向市の優良活動地区研修視察等、これまでに１０回の調査や会議を開催してきました。今後、平成２１年１月末をめどに調査・審議を行い、委員全員の意見を盛り込んだ答申をまとめたいと考えております。

さて、社会教育委員の取組には、制度上の公的な職務としての取組と個人的な立場によるボランティアとしての取組という、２つがあるのではないかと考えます。今、私たちの身近な地域や社会で起こっている家庭・地域の教育力の低下などの様々な課題は、社会教育を活性化することによって解決できるのではないかと思います。微力ではありますが、今後もフットワークとネットワーク、そしてチームワークをもって積極的に住民の中に入り、社会教育委員としての活動を展開していきたいと考えます。

【西都・児湯地区】　　西都市社会教育委員　　小　野　　昭

西都・児湯地区は、総面積 1154.36 平方キロ（H18.10.1 現在）現住人口 109,554 人（H19.8.1 現在）世帯数 40,699（H19.8.1 現在）の１市 6 町村、県央に位置する、農林水産業を主な産業とする典型的な地区を構成している。それは、各市町村とも、それぞれ他に類例のない特徴を持って発展途上にあり、これを社会教育の面から考察すると、社会教育施設においては、おおむね、平均して充実しており､その面で自治公民館活動もそれなりの整備促進がみられるところである。

特に、生涯学習の総合的な推進は、各市町村力を入れており、関係機関、団体等の連携に努めている。また、家庭教育学級の開設により、家庭教育力の向上を目指すとともに、学校、家庭、地域社会との連携強化につとめ、地域教育力の向上に努めつつある。そして、青少年の多様な体験活動の機会を提供するため、ジュニアリーダーの育成や子どもチャレンジ教室の支援を図るほか、各市町村図書館は市町村民のニーズに応えられるよう、コンピューターシステムを導入し、図書館利用を呼びかけている。さらに青少年の健全育成にも力を入れ､一方人権教育の推進､芸術文化の推奨にも努力しつつあり、さらに健康増進のために生涯スポーツの推進にも社会教育委員として取り組んでいる。

【東臼杵地区】　　東臼杵地区会長　南　多喜夫

東臼杵地区では、管内２市２町２村との連携と協力のもとに、研修面の充実と内容面の活性化を重視して取り組んでいます。特に顕著な活動例２件を紹介します。

延岡市社会教育委員の柘植健さんは、１０月１５日綾町で開催された｢宮崎県社会教育委員研究大会・宮崎県公民館経営セミナー」において、①延岡市の教育委員との合同会議　②学校完全週５日制実施に伴う子どもの受入れ体制作りと社会教育関係機関等との連携　③社会教育の事業評価に関する提言　④「家庭の日｣を再び意義あるものにしようという取組の状況報告　⑤市文化連盟事務局長としての子どもの文化創造活動や文化事業、団体への補助金制度の活用等の実践発表をされました。

平成20年10月19日(日) サンドーム日向　参加者457名(133家族) 総勢626名

日向市社会教育委員の今村桃代さんは、１０月１９日に行われた「みやざき子ども教育週間｣地域推進大会(東臼杵地区)の大会名横看板の揮毫に協力いただきました。右の写真は看板を囲んでのスタッフの記念写真です。

【高千穂地区】　　高千穂町社会教育委員　押方　勇夫

高千穂町の社会教育委員は、社会教育関係団体代表者及び学識経験者で構成され、会議と視察研修それぞれ年２回程度実施している。会議では地域住民と社会教育の関わりや、生涯学習を推進していくための施策について、意見を集約して、それを学習計画に盛り込んで講座開設などに活かしている。

私たちは、生涯学習推進会議という組織をつくっており、毎年『うるおい・やすらぎ・いきがい』のあるまちづくりをテーマに「町民のつどい」という大会を開催している。そこで幹事として参加し、本町の個性豊かな学習の推進に貢献できるよう努めている。

そして、視察研修もしており、昨年は廃校を地域住民の生涯学習の拠点として活用している先進地を訪れ、今後起こりうる施設再利用のあり方について研修を深めた。

私は、社会教育委員の職務を達成するために「住みよいまちづくり」を目指して、微力ながら日々研鑽し、地域住民の意向を反映させた委員会にしていきたいと思う。

【社会教育情報】

会報第３号において、平成２０年６月１１日に社会教育法の一部が改正されたことをお知らせしましたが、その中に位置づけられました「学校支援地域本部事業」や「放課後子ども教室推進事業」とはどのような事業なのでしょうか。

学校支援地域本部事業

家庭や地域の教育力の低下が指摘される中で、学校に過大な役割が求められるようになり、教師が児童生徒一人一人にきめ細かな指導を行う時間を確保しにくくなっています。

このような状況を踏まえ、地域全体で学校教育を支援する連携体制を構築し、地域住民が学校の教育活動等を支援することにより、教師の児童生徒と向き合う時間の拡充を図るとともに地域の教育力の向上を図るための事業です。

中学校区単位を基本として、市町村に「学校支援地域本部」を、学校区内に「地域教育協議会」を設置します。県内では１７市町、２１本部が立ち上がりました。

放課後子ども教室推進事業

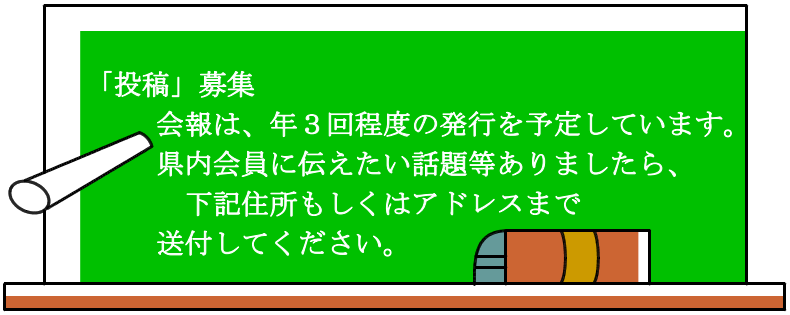
放課後や週末等において、学校の余裕教室等を活用しながら、全ての子どもを対象として、安全・安心な活動拠点を設け、地域住民の参画を得て、勉強やスポーツ・文化活動・地域住民との交流活動等に取り組む事業です。平成１９年度から、厚生労働省と文部科学省とが共同で、「放課後子ども教室」と「放課後児童クラブ」を連携しながら実施する総合的な放課後対策「放課後子どもプラン」として事業が展開されています。

県内では、１８市町村（教室設置１３市町村、運営委員会のみ５町村）、６４教室で活動が始まっています。

～お知らせ～

生涯学習、社会教育に関する情報が、県の生涯学習情報システム「ＳＵＮ－ＮＥＴみやざき」で御覧いただけます。インターネットで、是非、アクセスしてください。

http://sun.pref.miyazaki.jp/



○　今年度の理事会・総会において、本協議会の財政基盤を固めるために、五百円から千円程度の個人負担を徴収することについて各地区での協議をお願いしたところであります。各地区においては、既に協議がなされて方向性が出ているところもあるかと思いますが、次年度の理事会開催前に意見の集約をいたしますので検討をよろしくお願いいたします。

○　なお、平成２１年度市町村負担金については、県市町村負担金審議委員会から、先日、決定通知があり、前年比５％減の要求が認められましたことを報告いたします。

事務局：宮崎県教育庁生涯学習課（担当書記：小嶋）
住　所：〒880-8502　宮崎市橘通東１丁目９番１０号
ＴＥＬ：０９８５－２６－７２４５
ＦＡＸ：０９８５－２６－７３４２
E-mail：kojima-masafumi@pref.miyazaki.lg.jp